

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

大切なのは、「読んでみたい」と心を動かされた本を手にとることです。

～ 出口治明著『本の「使い方」 1万冊を血肉にした方法』(KADOKAWA) p.237より～

1. 実は私たち、日頃から「哲学してるんです」

～ 哲学の父・ソクラテス～



ジャック・ルイ・ダヴィッド『ソクラテスの死』メトロポリタン美術館 (Public Domain)

こんな言い方をしては哲学に大変失礼ですが、哲学ってなかなかとっつきにくいイメージがありますでしょうか。崇高で才能に恵まれた思想家の人たちが、答えのない問題を頭の中でぐるぐると考えているイメージがありますが(ロダンの有名な彫刻

「考える人」のような感じですが、実は私たちが普段から哲学をしているって、ご存じでしたか? そもそも哲学とは「知りたいことを知るために【考える】ということをするもの」です。人間はもともと知りたがりやで、考えずにはいられない生き物だそうで、例えば、「人生って何?」とか「宇宙ってどうなってるの?」とか、皆さんも一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。これに対して、答えを導き出そうとあれこれと推論を巡らせている過程こそ「哲学している」ことになるのです。ですから、知らず知らずのうちに、私たちが普段から「哲学している」ことになるのですね。

最も有名な哲学の概念の1つに「無知の知」があります。これは哲学の父と称される古代ギリシアの哲学者ソクラテスが唱えたもので、「(自分が)知らないということを知っている」という意味です。ある日、「あなたこそが一番賢い」と神様から告げられたソクラテスは「自分はそんなに賢くないのになぜ?」と疑念を抱き、町中の賢者たちに質問をして回りました。すると、実は賢者たちはあまり物を知らず、知ったかぶりをしていただけだったという事実が判明します。このことからソクラテスは、『自分は何も知らない』ということを知っている人の方が賢い」と考え、さらに「知」を探究していきました。ソクラテスが用いた「問答法」は、相手が自分自身で答えを見つけ出す術として、今なお活用されています。ですから、授業や実習で先生が皆さんにたくさんの質問をするのは、皆さんが自分自身で答えを導き出すお手伝いをしていてくれるんですね。こう考えると、哲学って意外と身近だと思いませんか? 毛嫌いせずに多くの偉人たちの哲学に触れると、毎日の生活はもちろん、生きることそのものに深みが増してきますよ。



哲学大図鑑
(ウィル・バックinghamほか 著/
小須田健 訳 / 三省堂)

2. 新しい人生観を、20代の皆さんへ

卒業生からご紹介いただいた書籍『20代で得た知見』。今まさに20代を過ごしている彼女にとって、本書は手元に置いておきたいほど心惹かれるものだったそうです。すでに20代を過ごし終えている身としまして、答え合わせのような気持ちで拝読しましたところ、(タイトルには20代とついていますが) どなたが読んで、興味深くお読みいただける内容だと感じました。著者は20代の人生について、「忘れたい断片にいくつ出会い、心を動かされたかで決まる」と考えていらっやいますが、その「忘れたい断片」について様々な職種や立場の人に訊ね、1冊にまとめたのが本書になります。エッセイ集のような形式ですので、気軽にすらすらと読むことができますよ。十人十色の20代の知見に、共感や新たな気づきを感じます。これから20代を過ごす皆さんにぜひ読んで欲しい。きっと新しい人生観や恋愛観を教えてくれるでしょう。印象深かったのは「12.好きってなに」(p.34)と「107.あれが守ってくれてたんだ」(p.164)です。ポツと心が温かくなる20代の知見です。



20代で得た知見
(F著 / KADOKAWA)

3. 徳川氏発祥の地は、なんと深谷市の隣町です!

日本史上、最も有名な武将の一人である徳川家康公。現在、NHK大河ドラマで嵐の松本潤さんが初々しい家康公を演じていらっやいますね。家康公と言いますと、その御霊が祀られている日光東照宮(栃木県日光市/世界文化遺産)を想像する方も多いかもしれませんが、実は深谷市に隣接する群馬県太田市世良田町は、徳川氏発祥の地として知られます。

1542年に岡崎城主・松平広忠の嫡男として三河国(現・愛知県東部)に生まれた家康公は、幼名・竹千代を授かって以後、何度かにわたり改名します。1566年、三河守に任命されたのを機に松平姓を徳川に改姓しますが、この徳川姓こそ、松平氏のルーツである上野国新田郡世良田荘徳川郷(現・群馬県太田市世良田町)に由来するのです。同町には、3代将軍徳川家光公によって、日光東照宮の元社殿や宝物などが移築された世良田東照宮があり、徳川氏発祥の地の東照宮として親しまれています。

戦国時代に終止符を打ち、争いのない平和な時代をつくった家康公は、とても我慢強く、努力をする人だったと言われていています(実は短気だったなんていう話もあり、今回のNHK大河ドラマでは家康公がいら立っているシーンが多いように感じますね)。家康公の有名な肖像画の一つに「徳川家康三方ヶ原戦役画像」(徳川美術館所蔵)がありますが、通称「しかみ像」とも呼ばれるこの絵は、家康公が三方ヶ原の戦いで戦国最強と言われる武田信玄と討ち合った際に、ほうほうの体(てい)で逃げ帰ってきた姿を描かせたものと伝えられています。自身の惨めな姿を残すなんてなかなかできないことですが、さらに家康公は、生涯この絵を座右に置き、慢心の戒めとしたそうです。恥ずかしい経験をモバネにする家康公の折れない心には敬服するばかりですね。2023年は戦国の覇者である徳川家康公から目が離せません。



TOKUGAWA 15
徳川将軍15人の歴史がDEEPにわかる本
(堀口菜純 著/草思社)



◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

論語は決してむずかしい学理ではない。
孔夫子の教えは実用的の卑近(ひきん)の教えである。

【『論語と算盤』・処世と信条】

論語とは、中国古代の思想家・孔子とその弟子たちとの対話をまとめたもので、栄一翁は生涯を通じてこの教えを大切にしました。現代にも通ずる「身近で実用的」な孔子の教えは決して難しいものではありません。不安な時、何かに迷った時、挫けそうな時…心の支えになってくれる言葉が論語にはあります。

※格言は『渋沢栄一 100の金言』渋沢健 著/日本経済新聞出版社 p.182より転載

『絵で見るシリーズ 調べてなるほど! 野菜のかたち』

管理栄養学部 長谷川順子



絵で見るシリーズ
調べてなるほど! 野菜のかたち
(柳原明彦 絵と文/ 縄田栄治 監修/ 保研社)

みなさんもお存じのように埼玉県は海なし県ですが、一年中新鮮な野菜を食べることができます。では、店頭で販売されている野菜たちが、どこから日本にやってきて、どうやって栽培されているのか、ちょっと気になった食材を調べる方法は何ですか? ほとんどの方が手取り早くITを活用されていることと思いますが、書籍で調べてみるはどうでしょう。

今回ご紹介する図書は、ちょっと息抜きする時にお勧めしたい、植物イラストレーター 柳原明彦著、縄田栄治監修『絵で見るシリーズ 調べてなるほど! 野菜のかたち』(保研社)です。この図書は子育て世代の方がお子さんと一緒に楽しみながら野菜のことを知ってもらおう内容となっていて、ほとんどの漢字にふりがなが付けられ、約40種類の野菜にまつわるいろいろなお話や、野菜の絵、野菜の花も描かれています。

では、私が興味を持った内容の一部をご紹介します。まず始めは「オクラ」です。一般流通しているオクラの切り口は五角形ですが、この図書には、花びらも5枚、1枚の葉がほとんど5つに分かれていると書かれています。オクラは5という数字にこだわっているのでしょうか。その他にも、コンパスと定規を使って「オクラの切り口よりも正確な正五角形の描き方」が書かれていて、「人間はこうして簡単に五角形を作れるけれど、オクラはコンパスもなしで、どうやって作ったのだろう、大自然の不思議の一つだ。」とまとめられています。

次に「たけのこ」です。私たちがよく食べている竹のこは孟宗竹で、研究により花の開花は67年周期と言われています。さらに開花のスイッチはその個体が植栽されている環境条件に関わらず、植物体内の何かしらの因子によって司られていると考えられていて、花を見るのが難しいのです。しかし、この図書には水墨画のやさしいタッチで花が描かれていました。イネ科タケ亜科属のたけのこの花は稲(米)の花に似ていました。

最後に「だいず」です。大豆は、「畑の肉」と言われるくらいたんぱく質が多く、ビタミンやミネラルも豊富に含まれていて、日本国内では縄文時代から栽培されていたと言われています。この図書には、大豆からプラスチックも作ることができ、1941年に車体が全て繊維強化プラスチック(FRP)で作られた「ノイビー・カー」の試作車が発表されていたことが書かれていました。昨年のCOP27で地球の環境問題について議論されていましたが、石油を使わない環境にやさしいバイオプラスチックが、すでに80年も前に考えられていたにもかかわらず普及しなかったことは、残念なことですね。

私にとって本書は、知っているようで知らなかったことが案外あることに気づかされた一冊でもあります。最後になりますが、今回ご紹介した『絵で見るシリーズ 調べてなるほど!』は『野菜のかたち』の他に『果物のかたち』、『花のかたち』全3巻になっていますので、興味のある図書を選んで読んでください。

「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展

メゾン創立70周年を記念して、2017年にパリで初めて開催された「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展。その後、ロンドンやニューヨーク、上海などを巡り、現在は日本に上陸中です。本展の空間演出を手掛けているのは、OMA*1のニューヨーク事務所でパートナーをつとめる建築家・重松象平氏です。日本文化へのオマージュとして新たな空間をデザインし、ブランドの創始者であるクリスチャン・ディオール氏の先駆的なビジョンから始まった、75年以上にわたる創造の情熱を伝えていきます。そして、カタログ撮影を手掛けたのは写真家・高木由利子氏で、本展のために撮り下ろされた幻想的な雰囲気を持つ作品群は、ディオールのドレスをより魅力的に輝かせています。

幼少期から日本文化に魅了されていたクリスチャン・ディオール氏は、常々、日本と強い絆を育んでまいりました。ディオールは最初に日本に進出した西洋ファッションブランドとして知られ、1953年には大丸や鐘紡とパートナーシップを結び、ディオールのパターン(型紙)を使って、日本人女性のスタイルに合わせた服を仕立てる権利を両社に提供しました。

同年11月には、本家ディオールが日本で初となるファッションショーを開催し、多くの人々を魅了しています。1959年に行われた現上皇ご夫妻の結婚の儀では、ディオールは美智子様のためにドレスを3着もデザインしているんですよ。

クリスチャン・ディオール氏の急逝により、一時はメゾン存続の危機も囁かれましたが、イヴ・サンローランやマルク・ボアン、ジャンフランコ・フェレなど、その時代のトップデザイナーたちによってメゾンは引き継がれ、ブランドの伝統を守りつつ、各々の個性を織り交ぜながら、いまなお新しいデザインを世に送り出し続けています。クチュリエたちの愛と情熱に包まれたディオールの世界はまさに圧巻です。眩いほどの華やかさです。

*1 建築、都市計画、文化分析に参画する国際的な建築設計事務所

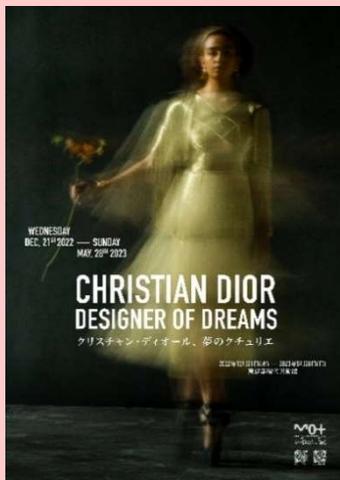


写真:「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」展ポスター(2022年) ©YURIKO TAKAGI 写真提供:クリスチャン・ディオール(画像の転載ならびにコピー禁止) 会場:東京都現代美術館 企画展示室 1F/B2F(〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1(木場公園内)) 会期:2022年12月21日(水)~2023年5月28日(日) 開館時間:10:00~18:00(展示室入場は開館の30分前まで) 休館日:月曜日 観覧料:一般 2,000円 / 大学生・専門学校生 65歳以上 1,300円 / 中学生以下無料 ※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・肢体障害者手帳をお持ちの方と、その付添いの方(2名まで)は無料になります。 ※本展はクリスチャン・ディオール クチュリエの特別協力により、中学生が無料です。美術鑑チケット売場にて入場の紙チケットをお渡しします(学生証をご提示ください)。 ※小学生以下のお客様は保護者の同伴が必要です。 アクセス:東京メトロ半蔵門線「清澄白河駅」B2番出口より徒歩9分 ほか 東京都現代美術館HP:https://www.mot-art-museum.jp/ ※最新の情報はHPをご覧ください。

◇ クリスマスローズ ◇



英国の庭園家ガートルード・ジーキルも愛したクリスマスローズ。生まれたばかりのキリストに贈られた花としても知られます。美しく艶やかですが、うつむくようなどこか寂しげな姿で可憐に咲いており、「追憶」や「私を忘れないで」の花言葉がついています。

◆ 図書館からのお知らせ ◆

東都大学附属図書館では主に医学や看護、管理栄養に関する本を多く所蔵していますが、このほかの分野でも「皆さんに読んで欲しいな」と思う本がたくさんあります。本棚に入っているだけではなかなかその魅力が伝わらないので、図書館通信やPOP展示、(図書館入口に設置しました)おすすめ図書ボードを通じて、今後も多彩な本を紹介してまいりたいと思います。皆さんのお好きな本や友達に紹介したい本、忘れられない本などもぜひ教えてください。【休館のお知らせ】2023年3月13日(月)~31日(金)は蔵書点検のため、臨時休館いたします。ご不便をおかけいたします。